



AA ケーブル  
Special Issue

## スタジオユースも想定した フルテックの最新電源ケーブルの音を探る

フルテックより、新たに二種類の電源ケーブルが登場した。いずれも導体にPC Triple-Cを採用した完成品の電源ケーブルだが、イギリスの老舗ライブハウスにあやかった名前とサウンドが大きな特徴となっている。その名の通り、プロユース、スタジオ使用まで想定した最新のフルテックの音を、鈴木 裕氏がレポートする。

Text by 鈴木 裕  
Yutaka Suzuki

Photo by 田代法生



### FURUTECH The Astoria

電源ケーブル  
¥22,000(1.5m/税別)

### FURUTECH The Empire

電源ケーブル  
¥35,000(1.5m/税別)

**[The Astoria]** ● 導体: PC-Triple C ● 構成: 80本 0.18mmφ×3極 ● プラグ: FI-11M(Cu)、FI-11(Cu) ● 絶縁材: 特殊耐熱オーディオグレードPVC ● インナーシース: RoHS指令適合オーディオグレードPVC ● シールド: 0.12mmOFC編組 ● アウターシース: RoHS指令適合オーディオグレードPVC ● アウタースリーブ: ナイロン糸編組

**[The Empire]** ● 導体: PC-Triple C ● 構成: 45本 0.32mmφ×3極 ● プラグ: FI-11M(G)、FI-11(G) ● 絶縁材: 特殊耐熱オーディオグレードPVC ● インナーシース: RoHS指令適合オーディオグレードPVC ● シールド: 0.12mmOFC編組 ● アウターシース: RoHS指令適合オーディオグレードPVC ● アウタースリーブ: ナイロン糸編組 ● 取り扱い: フルテック(株)

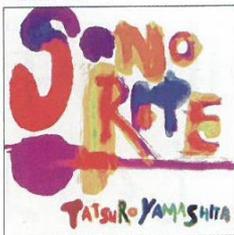
低音がよく出て反応が良い音楽にハリを持たせてくれる

スタジオ・パワー・シリーズは「プロ・オーディオグレード電源ケーブル」であるフルテックでは定義、楽器や機材の特徴を引き出すべく、歪みなくクリアに音を伝送させ、余分な色づけを避けた原音に忠実なケーブルを目指している。技術的には音質を劣化させる要因であるノイズと振動の対策を素材やパーツ、構造として研究。4モデルがラインアップするが、ここではその値段の高い方の2モデル、The AstoriaとThe Empireを紹介しよう。

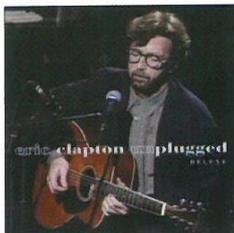
The Astoriaのプラグは同社のFI-11M(Cu) / FI-11(Cu)を、The Empireでは金メッキを施したFI-11M(G) / FI-11(G)を採用している。導体はいずれもPC-Triple Cだが、線の構造と径は異なる。絶縁体はオーディオグレードPVC。3本の導体をまとめているのも同じくPVC。その外側にOFC銅のシールド、さらにPVCの厚めの層を被せ、最後にナイロンのメッシュ処理を施してあるところは両者に共通する。

# 低音の押し出しよくスピーカーを鳴らす アキュレートさと低音のバランスの取れた良モデル

●試聴音源



ソノリテ / 山下達郎



unplugged / エリック・クラプトン

●試聴機材

スピーカー：TAD EVOLUTION ONE  
 パワーアンプ：アキュフェーズ  
 M-6200×2台  
 プリアンプ：アキュフェーズC-3850  
 USB DAC：アキュフェーズDP-720  
 パソコン：Mac+Audirvana Plus 1.4.1

本誌試聴室でアキュフェーズのデジタルプレーヤーDP-720に使用してテストした。たしかに低音がよく出る電源ケーブルで反応も良い。音の色彩感自体の表現力はあるが、ややマットなニュアンスの音色感。高域は穏やかで、刺激的な成分を抑制しているように感じるも、音域的な伸び自体は悪くない。クラシックを聴くとホルトーンは多めで、音像はくつきりしている。音場は前後に浅く、左右方向にもそれほど広がらないが、

The Empire エンパイアはより太く、16mmの外径を持った電源ケーブルだ。導体は0.32mm径×45本という構成。メーカーでは「細かい部分まで忠実に再現できるような解像度が高く、アタックが強く高レスポンス。全体的にバランスの整ったケーブル」と紹介している。

実際に聴いてみると、やはり低音がよく出るが、アストリアよりも縮まった低音で、さらに押し出し

The Astoriaの導体は、0.18mm径×80本が1本の導体を構成。外径は12.8mmだ。メーカでは「レスポンスの速さ・音のスピードをピュアに再現しつつも中低域の力強さを後押しする」キャラクターと説明している。

しっかりとまとまって音楽をやっている感覚。特徴的なのは中域と高域の間くらいにテンションの高い帯域を感じ、それが音楽にハリを持たせてくれる。スピーカーがよく鳴るケーブルだ。

アストリアより縮まった低音でたっぷり音楽を鳴らしてくれる



The Astoriaのケーブル構造。導体はPC Triple-C、絶縁材にはオーディオグレードPVCを採用することで、耐電圧、耐熱の向上と振動の防止を実現している

しがいい。音には解放感があり、それぞれの楽器の音像の間には空間が見えてくる。音像は小さめで、音場は左右のスピーカーを結んだ線を中心に展開し、左右方向は比較的コンパクト。S/N感が良い空間にたっぷり音楽を鳴らしてくれる感覚がいい。分解能が高く、コントラストも強めなので音の細部までが明確にくつきりと見えてくる。どちらのモデルもアキュレートさとよく出る低音のバランスの取れた製品とお伝えしたい。



福田雅光氏も推薦！

全体に表現力が高いことを評価  
 澄み切った空間の広がりも魅力

自宅の試聴室のパワーアンプ、アキュフェーズA-70の電源ケーブルを交換して試聴を行った。アストリアは外径約13mmφと上級より多少細いが、高SN比でバランスよく帯域を広げ解像度の高い性能が得られている。高域の繊細性や音のコントラスト、輪郭の精度に優れ、また低音の締めや分解力など、全体に表現力の高いことが評価する要素である。音質は純度鮮度が高いといった感触があり、澄みきった空間の広がりも魅力だ。

エンパイアはケーブル導体が太く金メッキプラグで構成された特色が性質に現れている。低域中低域のエネルギーが豊かに構成されるため、厚スケールの大きな表現力が魅力だ。ま滑らかな音質に特色を示す。好みで選ぶことになるが、コントラストや解像力を重視するとアストリアに軍配が上がる。



## Studio Power Seriesとは？

オーディオユースのみならず、楽器やプロ機材の電源にも大きな効果を発揮するプロ・オーディオグレードシリーズ。近年、録音現場でも電源ケーブルの持つ重要性が改めてクローズアップされてきている。The Astoria, The Empire以外にも以下の2機種をラインアップする。



### G-314Ag-15 Plus

¥12,000/1.5m(税別)

ロングセラーモデルG-314Ag-18をモデルチェンジ。プラグをFI-15M Plus(R)/FI-15 Plus(G)に変更。電極部のメッキはゴールド



### Absolute Power-15 Plus

¥23,100/1.5m(税別)

Absolute Power-18をモデルチェンジし、プラグをFI-15M Plus(R)/FI-15 Plus(R)に変更。電極部のメッキはロジウム